

山梨県内の労働安全衛生の状況

～平成29年の労働災害発生状況と業務上疾病等の動向～

厚生労働省 山梨労働局 労働基準部健康安全課

平成29年1月1日から同年12月末日までに県下各労働基準監督署に提出された「労働者死傷病報告（休業4日以上）」、「健康診断結果報告書」及び「じん肺健康管理実施状況報告」を基に、県内の労働災害の現況及び労働衛生の現況を取りまとめました。各事業場においては、今後の労働災害防止及び労働衛生水準の向上を図るための参考としてください。

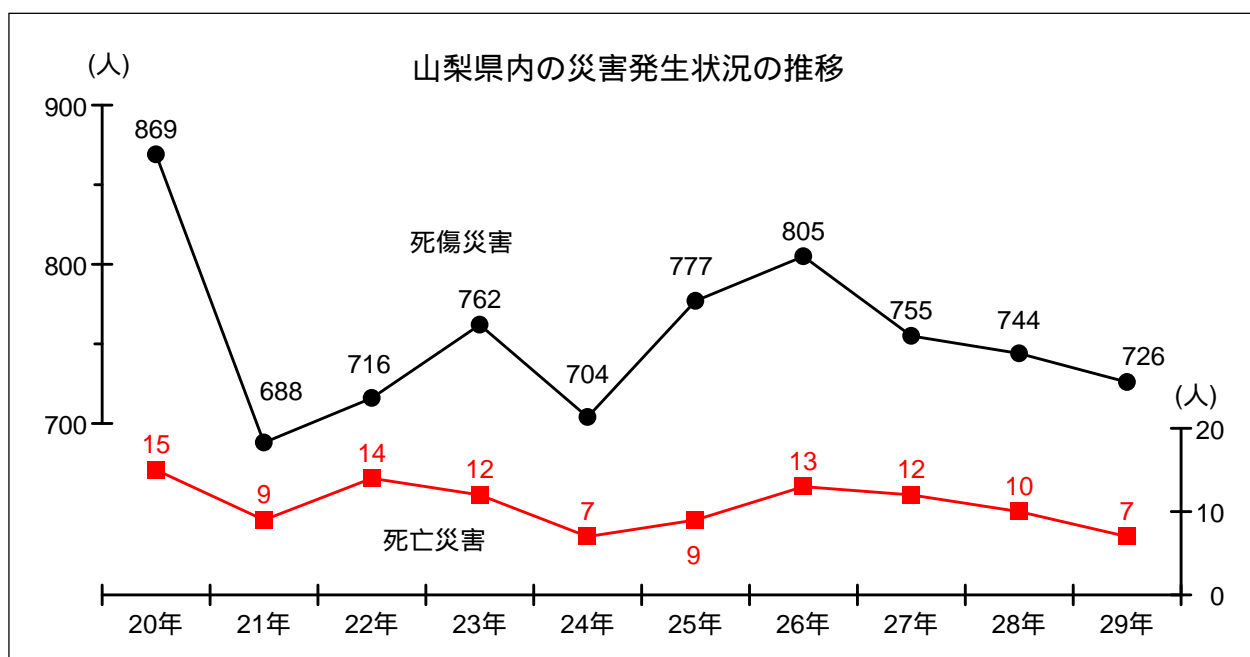
第1 山梨県内の労働災害発生状況

1 全産業における労働災害発生状況

県内の死傷者数は、昭和35年の3,856人をピークに減少傾向を続けており、平成21年には688人まで減少し、その後、増減を繰り返しながら推移していましたが、平成27年から再び減少を続けています。平成29年は726人と、前年に比べ18人減少(-2.4%)しており、3年続けて減少となっています。

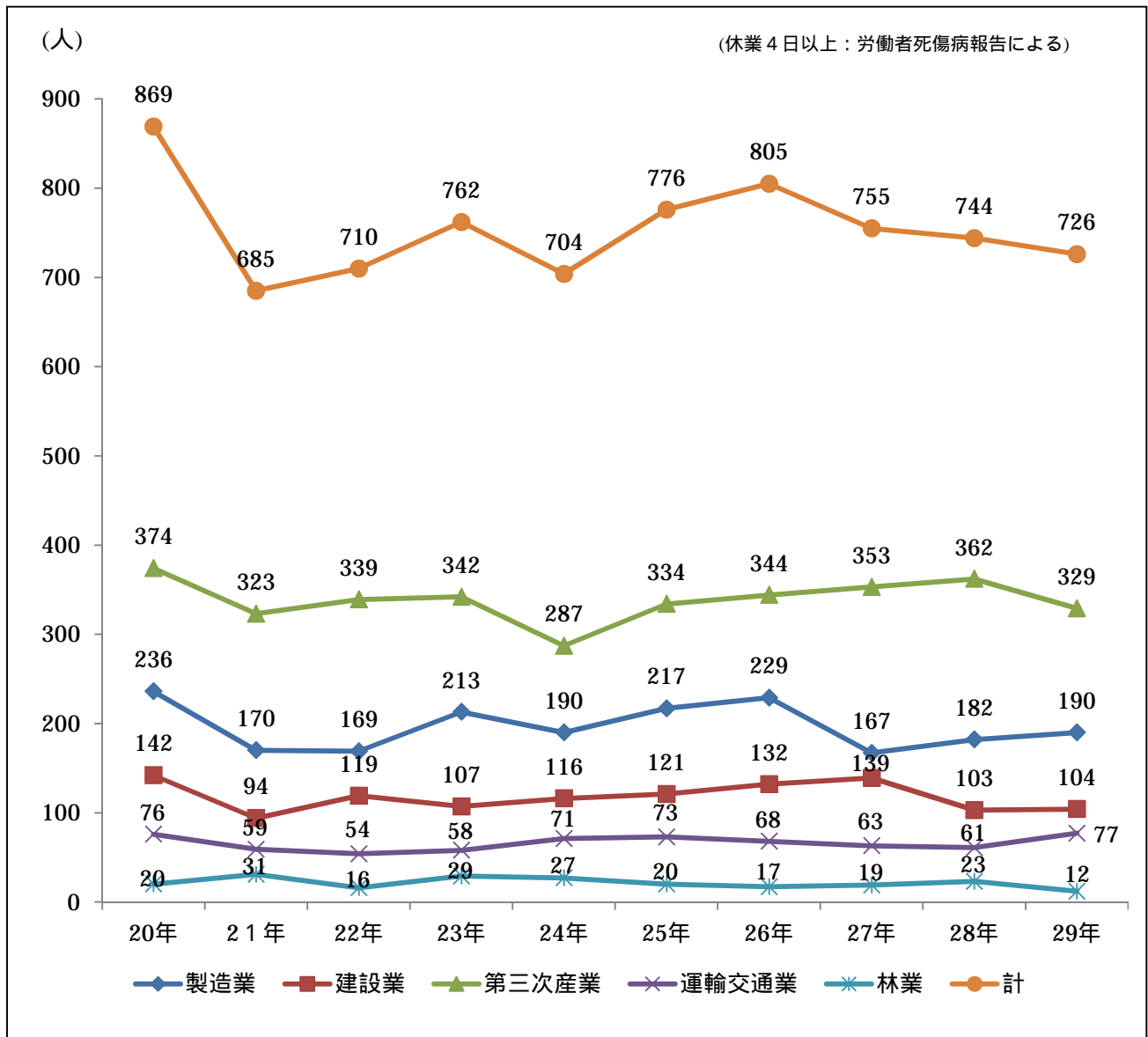
県内の死傷者数のうち死亡者は、昭和41年の59人をピークに増減を繰り返しながら長期的には減少傾向を示しており、平成29年は7人と前年に比べ3人減少(-30.0%)となりました。

平成30年については、6月末現在、山梨県内で2人の尊い命が労働災害によって奪われており、引き続き労働災害の防止が重要な課題となっています。



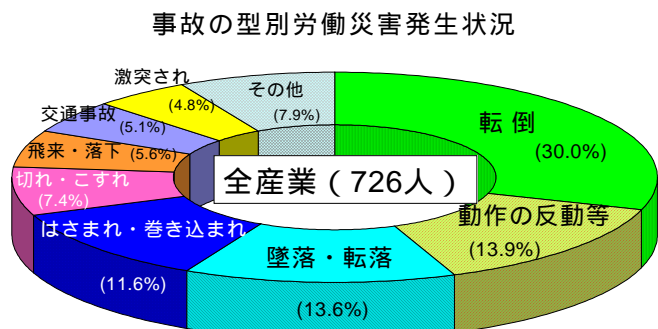
2 業種別労働災害発生状況

県内の平成29年における業種別の死傷者数を多い順にみると、製造業(190人)、商業(107人)、建設業(104人)、運輸交通業(77人)、保健衛生業(75人)、接客娯楽業(61人)の順となっています。前年と比べ、運輸交通業(+16人)、製造業(+8人)で増加した一方、清掃業(-19人)、接客娯楽業(-18人)、林業(-11人)で減少しました。また、第三次産業における死傷者数は329人と33人減少したものの、全産業中45.3%と半数近くを占める状況が続いています。



3 事故の型別労働災害発生状況(全産業)

事故の型別の死傷者数を多い順にみると、転倒(30.0%)、動作の反動等(13.9%)、墜落・転落(13.6%)、はさまれ・巻き込まれ(11.6%)等の順となっており、近年は転倒災害の占める割合が高くなる傾向となっています。



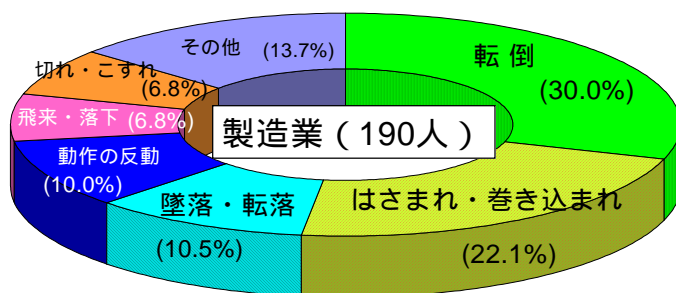
4 事故の型別労働災害発生状況（業種別）

(1) 製造業

製造業における事故の型別の死傷者数を多い順にみると、「転倒」(30.0%)、「はさまれ・巻き込まれ」(22.1%)、「墜落・転落」(10.5%)「動作の反動」(10.0%)等の順となっています。

また、死亡者数は「墜落・転落」、「はさまれ・巻き込まれ」及び「崩壊・倒壊」が各1人となっています。

製造業における型別労働災害発生状況

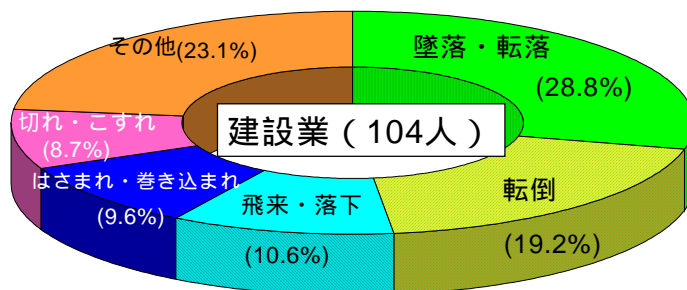


(2) 建設業

建設業における事故の型別の死傷者数を多い順にみると、仮設物や構造物等の高所からの「墜落・転落」(28.8%)、「転倒」(19.2%)、「飛来・落下」(10.6%)、「はさまれ・巻き込まれ」(9.6%)、「切れ・こすれ」(8.7%)等の順となっています。

また、死亡者数は「墜落・転落」及び「はさまれ・巻き込まれ」が各1人となっています。

建設業における型別労働災害発生状況

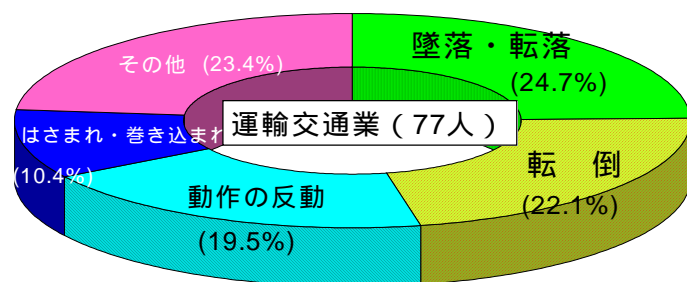


(3) 運輸交通業

運輸交通業における事故の型別の死傷者数を多い順にみると、「墜落・転落」(24.7%)、「転倒」(22.1%)、「動作の反動」(19.5%)、「はさまれ・巻き込まれ」(10.4%)等の順となっています。

また、死亡者数は「墜落・転落」及び「はさまれ・巻き込まれ」が各1人となっています。

運輸交通業における型別労働災害発生状況

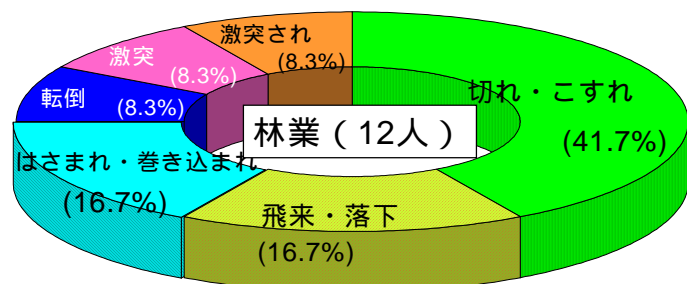


(4) 林業

林業における事故の型別の死傷者数を多い順にみると、「切れ・こすれ」(41.7%)、「飛来・落下」(16.7%)及び「はさまれ・巻き込まれ」(16.7%)、「転倒」(8.3%)、「激突」(8.3%)及び「激突され」(8.3%)の順となっています。

また、平成29年の死亡者はゼロでした。

林業における型別労働災害発生状況

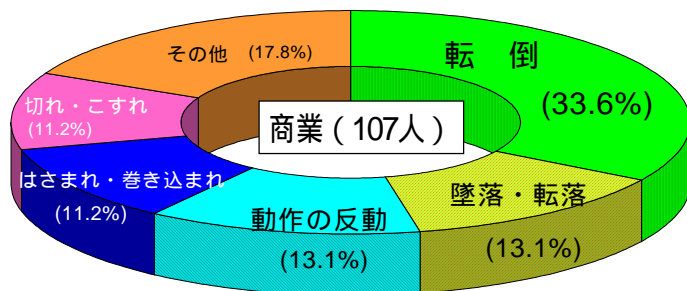


(5) 商業

商業における事故の型別の死傷者数を多い順にみると、「転倒」(33.6%)、「墜落・転落」(13.1%)及び「動作の反動」(13.1%)、「はさまれ・巻き込まれ」(11.2%)及び「切れ・こすれ」(11.2%)等の順となっています。

また、平成29年の死亡者はゼロでした。

卸・小売業における型別労働災害発生状況

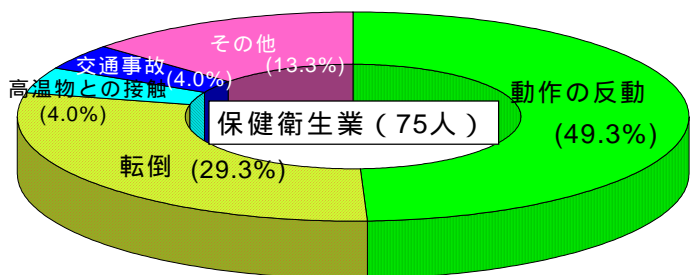


(6) 保健衛生業

保健衛生業における事故の型別の死傷者数を多い順にみると、「動作の反動等」(49.3%)、「転倒」(29.3%)、「高温物との接触」(4.0%)及び「交通事故」(4.0%)等の順となっています。

また、平成29年の死亡者はゼロでした。

保健衛生業における型別労働災害発生状況

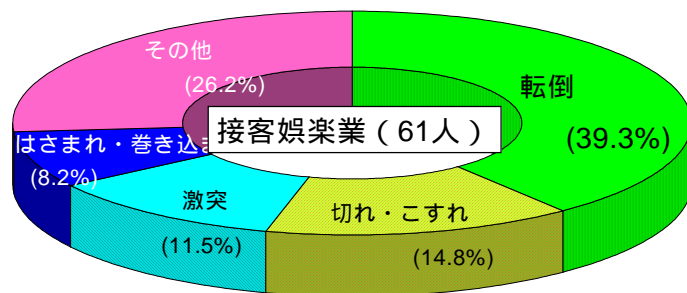


(7) 接客娯楽業

接客娯楽業における事故の型別の死傷者数を多い順にみると、「転倒」(39.3%)、「切れ・こすれ」(14.8%)、「激突」(11.5%)、「はさまれ・巻き込まれ」(8.2%)等の順となっています。

また、平成29年の死亡者はゼロでした。

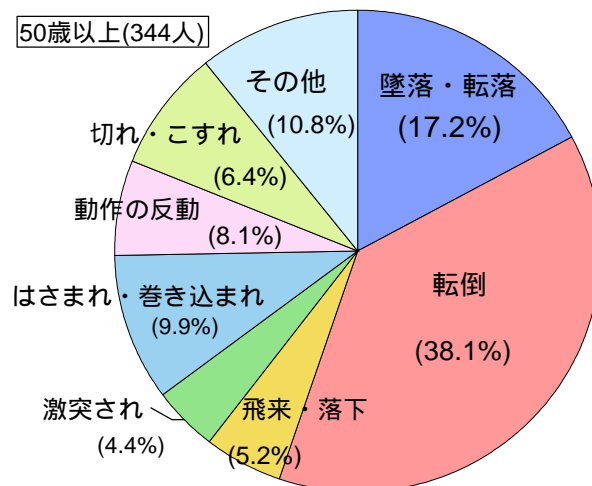
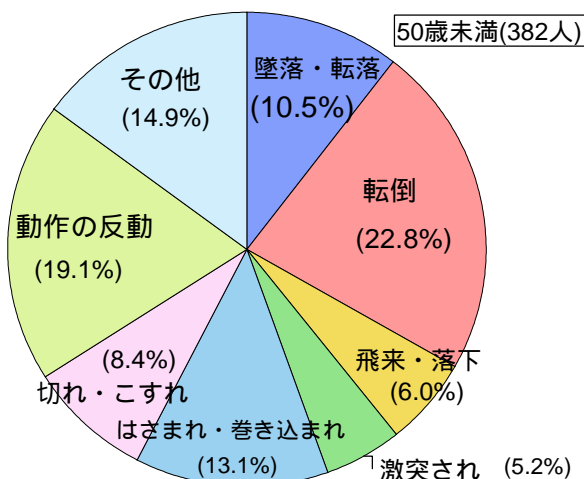
接客娯楽業における型別労働災害発生状況



6 年齢別労働災害発生状況

全産業の死傷者数を年齢で区分すると、50歳未満が382人、50歳以上が344人となっており、半数近くを50歳以上が占めています。

また、事故の型別に見ると、転倒災害は50歳未満では22.8%であるのに対し、50歳以上では38.1%と1.5倍以上の比率を占めています。

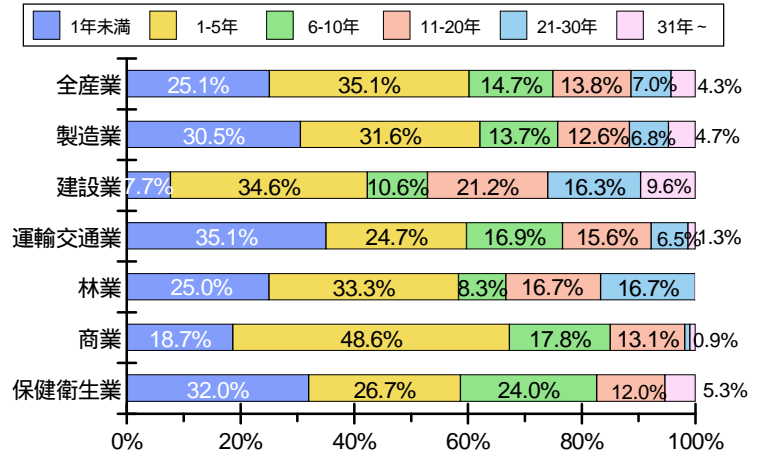


7 経験年数別労働災害発生状況

全産業の経験年数別の死傷者数を多い順にみると、1～5年(35.1%)、1年未満(25.1%)、6～10年(14.7%)、11～20年(13.8%)、21～30年(7.0%)、31年以上(4.3%)の順となっており、5年以下の経験の浅い労働者が60.2%と過半数以上を占めています。

また、業種別にみると、商業では経験年数5年以下の労働者の割合が67.3%と高くなっています。

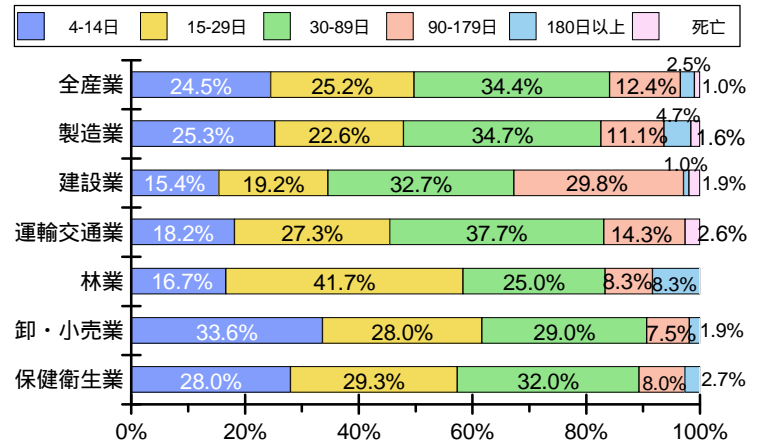
経験年数別労働災害発生状況



8 災害程度別労働災害発生状況

全産業の災害程度別の死傷者数を多い順にみると、30日以上89日未満(34.4%)、15日以上29日未満(25.2%)、4日以上14日未満(24.5%)、90日以上179日未満(12.4%)等の順となっており、休業見込日数30日以上(34.4%)の重篤な災害(死亡含む)が過半数の50.3%を占めています。

災害程度別労働災害発生状況

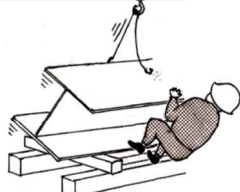

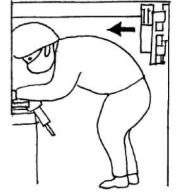


10 労働基準監督署別労働災害発生状況

業種別	平成29年・28年 1月～12月死傷災害(休業4日以上)比較表																業種別								
	合計				甲府労働基準監督署				都留労働基準監督署				状況労働基準監督署												
	死亡	死傷	死亡	死傷	増減数	増減率	死亡	死傷	死亡	死傷	増減数	増減率	死亡	死傷	死亡	死傷		増減数	増減率						
全産業	7	726	10	744	-18	-2.4	4	513	5	498	15	3.0	2	157	1	191	-34	-17.8	1	56	4	55	1	1.8	
1 製造業	3	190	1	182	8	4.4	2	118	1	117	1	0.9	1	56	0	54	2	3.7	0	16	0	11	5	45.5	
食料品		75		59	16	27.1		62		52	10	19.2		10		6	4	66.7		3		1	2	200.0	
木材・木製品		3		6	-3	-50.0		2		2	0	0.0		1		2	-1	-50.0				2	-2	-100.0	
家具・装備品		0		2	-2	-100.0				1	-1	-100.0					0					1	-1	-100.0	
パルプ・紙、印刷		5		7	-2	-28.6		2		4	-2	-50.0		1		2	-1	-50.0		2		1	1	100.0	
化学		15		12	3	25.0		8		9	-1	-11.1		5		2	3	150.0		2		1	1	100.0	
窯業・土石製品		9		9	0	0.0		6		3	3	100.0		3		5	-2	-40.0				1	-1	-100.0	
鉄鋼、非鉄金属		3		8	-5	-62.5		3		1	2	200.0				6	-6	-100.0				4	2	100.0	
金属製品	1	22	1	21	1	4.8	1	13	1	12	1	8.3		5		7	-2	-28.6		4		2	2	100.0	
一般電気・輸送用機械	1	43		42	1	2.4	1	16		25	-9	-36.0		25		17	8	47.1		2		2		-	
上記以外の製造業	1	15		16	-1	-6.3		6		8	-2	-25.0		1	6		7	-1	-14.3		3		1	2	200.0
2 土石採取業		2		1	1	100.0					0				1		1	0	0.0		1		1		-
3 建設業	2	104	5	103	1	1.0	0	64	2	60	4	6.7	1	24	0	31	-7	-22.6	1	16	3	12	4	33.3	
土木工事	2	44	3	37	7	18.9		21		19	2	10.5	1	10		9	1	11.1	1	13	3	9	4	44.4	
建築工事		38	2	51	-13	-25.5		25	2	31	-6	-19.4		12		19	-7	-36.8		1		1	0	0.0	
その他工事		22		15	7	46.7		18		10	8	80.0		2		3	-1	-33.3		2		2	0	0.0	
4 運輸交通業	2	77	6	16	26.2	2	64	0	47	17	36.2	0	10	0	11	-1	-9.1	0	3	0	3	0	0.0		
鉄道・軌道・水運・航空線、道路旅客運送業		4		4	0	0.0		2		1	1	100.0		2		3	-1	-33.3						0	
道路貨物運送業(その他の運輸交通業を含む)	2	73		57	16	28.1	2	62		46	16	34.8		8		8	0	0.0		3		3	0	0.0	
5 貨物取扱業		1		1	0	0.0		1		1	0	0.0		0		0	0	0.0		0		0		0	
6-2 林業		12	1	23	-11	-47.8		7		8	-1	-12.5		3		8	-5	-62.5		2	1	7	-5	-71.4	
8 商業		107	1	112	-5	-4.5		79		81	-2	-2.5		22	1	20	2	10.0		6		11	-5	-45.5	
9 金融・広告		9	1	7	2	28.6		8	1	7	1	14.3		1			1	-		0		0	0	0	
13 保健衛生業		75		72	3	4.2		65		57	8	14.0		9		13	-4	-30.8		1		2	-1	-50.0	
14 接客娯楽業		61		79	-18	-22.8	0	39	0	45	-6	-13.3	0	17	0	29	-12	-41.4	0	5	0	5	0	0.0	
ゴルフ場		18		26	-8	-30.8		6		8	-2	-25.0		11		15	-4	-26.7		1		3	-2	-66.7	
上記以外の接客娯楽業		43		53	-10	-18.9		33		37	-4	-10.8		6		14	-8	-57.1		4		2	2	100.0	
15 清掃業		29		48	-19	-39.6		21		31	-10	-32.3		5		15	-10	-66.7		3		2	1	50.0	
6-1・7・10・11・12・16・17 上記以外の業種		59	1	55	4	7.3		47	1	44	3	6.8		9		9	0	0.0		3		2	1	50.0	
(参考)第三次産業(8-17号)		0	329	3	362	-33	-9.1	0	251	2	254	-3	-1.2	0	60	1	86	-26	-30.2	0	18	0	22	-4	-18.2

1 1 死亡災害事例 - 平成29年に発生した死亡災害 -

確定値

番号	発生日 発生地	年齢 性別	業種 職種	事故の型 起因物	災害の概要	
① 甲府	3. 8 身延町	48 男	運送業 運転手	墜落 トラック	工事現場（明り掘削の箇所）から排出された土砂の運搬のため現場に入場していたダンプトラックが、荷台に土砂を積んだ後、現場内の作業道から通ずる仮設栈橋を渡って土捨て場に向かおうとしていたところ、現場内の作業道と仮設栈橋の接合部付近において、作業道端部の単管柵及び仮設栈橋の柵を突き破り、約3.4メートル下に墜落したものの。	
2 甲府	5. 31 中央市	43 男	製造業 作業員	崩壊、倒壊 クレーン	H鋼（80cm×800cm、1.6t）を移動させるため、橋形クレーンを使用して架台上に載せた後、H鋼から玉掛用具を外してH鋼上面に仮置きしてクレーンのフックを巻き上げたところ、玉掛用具がH鋼に引っかかりH鋼が倒れ、被災者の胸部に当たったものの。	
3 甲府	6. 23 南アルプス市	67 男	運送業 運転手	はさまれ、巻き込まれ トラック	朝の点呼後、車中のゴミを捨てようと4tトラックから降りて事務所に向かっていたところ、トラックのサイドブレーキが降ろしたままの状態であったためトラックが動きだし、これを止めようとして轢かれたもの。	
4 都留	7. 25 大月市	37 男	建設業 重機オペレータ	はさまれ、巻き込まれ ドラグショベル	0.02㎡のドラグショベルを用いて深礎工立坑内の地山の掘削作業を行っていた被災者がドラグショベルの後進させたところ、ドラグショベルの走行レバーと切り梁の間に体を挟まれたもの。走行レバーを倒す体勢で挟まれたため、ドラグショベルは後進を続ける状態となった。	
5 都留	9. 20 上野原市	54 男	製造業 フォークリフトオペレータ	転落 フォークリフト	廃棄物を入れたロールボックスパレットをフォークリフトに載せて廃棄物用コンテナまで運んだ後、フォークをコンテナ上端まで上昇させて廃棄物をコンテナ内に投棄していたところ、バランスを崩してロールボックスパレットごと転落したものの。	
6 甲府	10. 17 昭和町	26 男	製造業 技能職	はさまれ、巻き込まれ その他の動力運搬機	製造機械が停止したため点検業務を行っていた際に、機械駆動部を覗き込んだところ、突然機械が動きだし、当該機械に上半身を挟まれたもの。	
⑦ 鯉沢	11. 20 早川町	26 男	建設業 作業員	墜落 建築物、構築物	林道の橋にガードレールを設置するため、ガードレールを取り付ける支柱の建て込み作業を行っていたところ、橋の端部を移動中に5.1m下の斜面に墜落し、さらに同斜面を9.0m以上滑落したものの。	

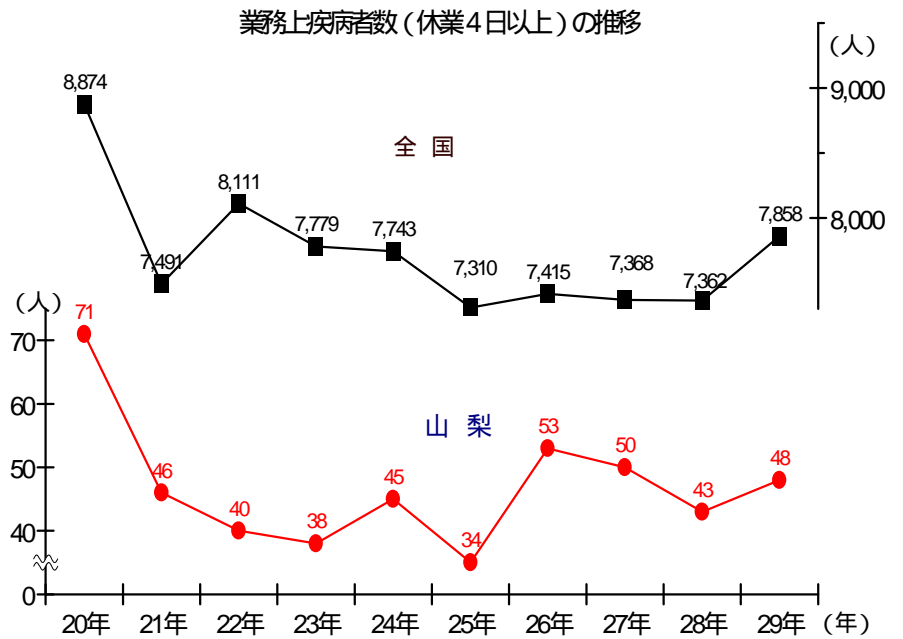
(注) 番号に○のついているものは公共工事を示す。

第2 労働衛生の現況

1 業務上疾病の発生状況

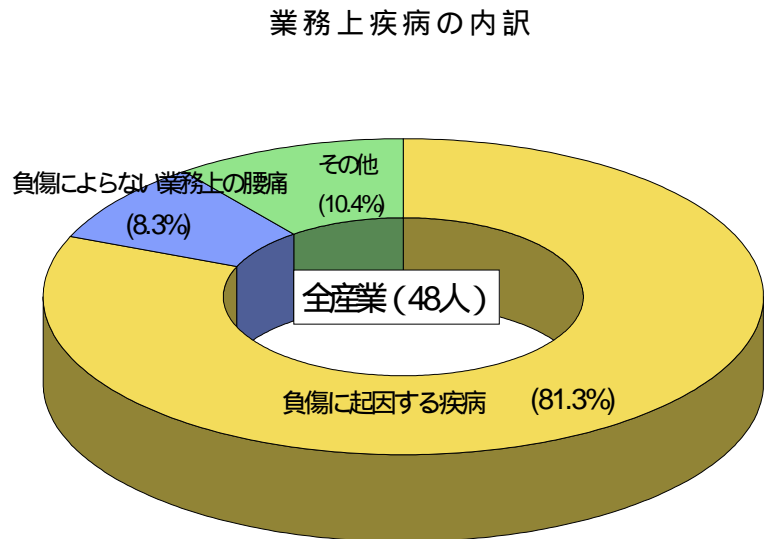
全国の業務上疾病者数は、昭和45年の30,796人をピークに、長期的には減少傾向を示しており、平成29年は7,858人と前年と比べ497人増加しました。

山梨県内の過去10年間の業務上疾病者数の推移は、平成20年の71人をピークに減少傾向が続いていましたが、その後増減を繰り返しながら推移しており、平成29年は48人で、前年と比べ5人増加しました。



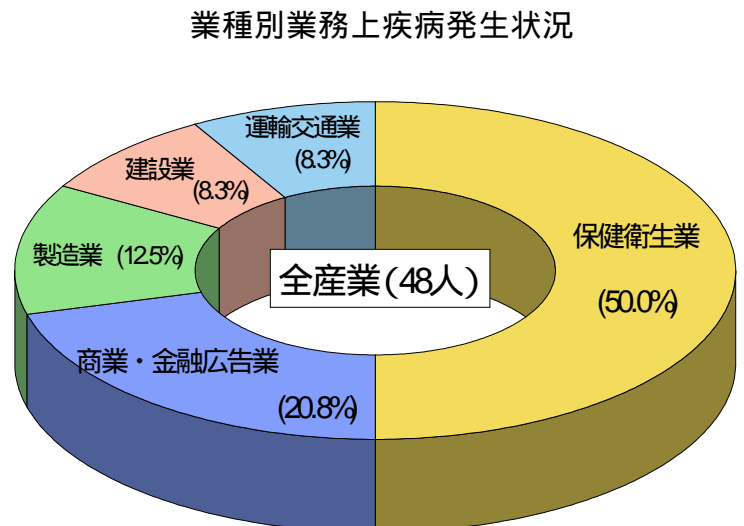
2 業務上疾病の内訳

県内の疾病分類別の業務上疾病者数をみると、負傷に起因する疾病が39人と全体の81.3%を占めています。このうち負傷に起因する腰痛は38人で、全体の79.2%を占めています。



3 業種別業務上疾病発生状況

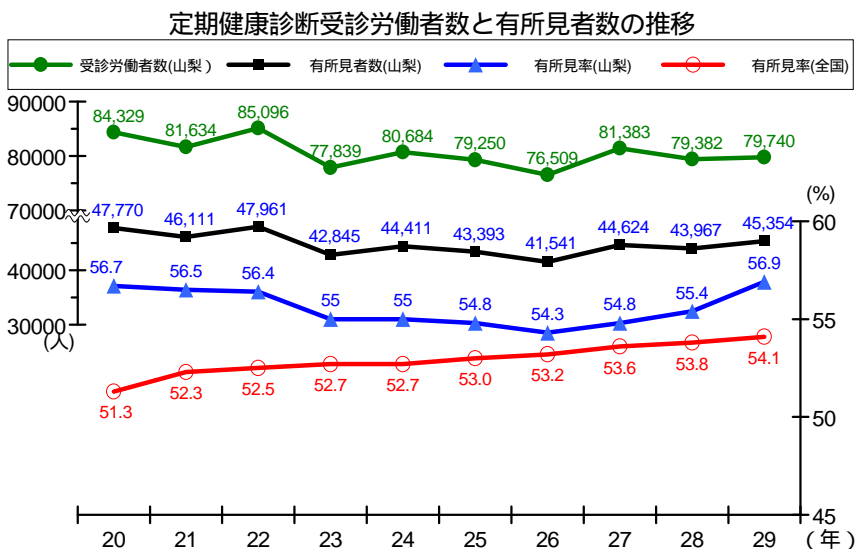
県内の業種別の業務上疾病者数を多い順にみると、保健衛生業(50.0%)、商業・金融広告業(20.8%)、製造業(12.5%)、の順となっており、前年同様、保健衛生業の割合が大きくなっています。保健衛生業の内訳は負傷に起因する腰痛が21人で、保健衛生業の87.5%を占めています。



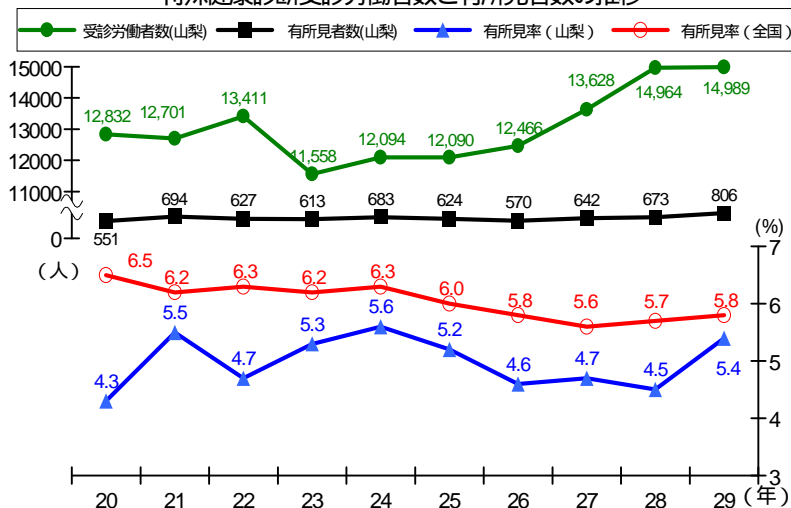
4 定期健康診断実施状況

平成29年の定期健康診断の県内の受診労働者数は約8万人でした。

有所見率は平成17年に50%を超えて以降、緩やかな増減を繰り返す状態が続いており、平成29年は56.9%と、全国の有所見率を2.8ポイント上回っています。



特殊健康診断受診労働者数と有所見者数の推移



5 特殊健康診断実施状況

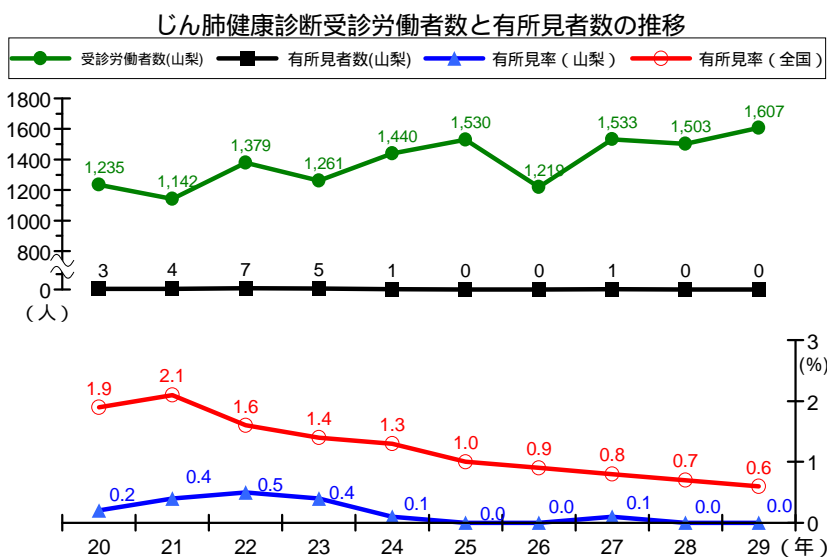
平成29年の特殊健康診断の県内の受診労働者数は約1万5千人で、有所見者は806人でした。

県内の有所見率は5.4%と、全国の有所見率を0.4ポイント下回っています。

6 じん肺健康管理実施状況

じん肺健康診断の県内の受診労働者数は、長期的には増加傾向にあり、平成29年は1,607人でした。

県内の新規有所見者数は年々減少しており、平成29年は0人でした。



お問い合わせは 山梨労働局 または 各労働基準監督署へ

山梨労働局労働基準部健康安全課 TEL055-225-2855

甲府労働基準監督署 TEL055-224-5617 都留労働基準監督署 TEL0554-43-2195

鯉沢労働基準監督署 TEL0556-22-3181

山梨労働局ホームページ <http://jsite.mhlw.go.jp/yamanashi-roudoukyoku/>